

他人事ではない土砂災害

岩沼市立岩沼中学校 一年 丹野 結月

近年、地球温暖化の影響もあり、異常気象が異常でなくなりつつあります。その例として、大雨の日が多くなり、土砂災害が増加しました。特に今年の七月から八月にかけて西日本で記録的な大雨が続き土砂災害が多発しています。山が崩れ、津波のように流れ道々てくる泥と大木。そして、土砂に飲み込まれていく家。人々の悲しみの叫び声。ニッス

を見ただけでも、土砂災害の恐ろしさが伝わってきて、鳥肌が立ちました。少しでも被害を抑えるために何をしているのか、と出来る事はないのかと思いきや、土砂災害について調べてみました。

そもそも土砂災害とは、主に土石流、地すべり、がけ崩れの三種類に分けられます。土石流は、谷や斜面にたまった土砂が大量の水と一緒にながって一気に流れるものです。速いスピードと強い力で、一瞬にして家や命を奪

います。私がニュースで見た熱海市の土砂災害の映像は、この土石流だ。たようです。地すべりは、ゆるやかな斜面の滑りやすい層が地下水などの影響でゆくりと動き出すものです。広い範囲にわたって起きるのが特徴で、一度で大きな被害をもたらします。かけ崩れは、地面に染み込んだ雨水や地震で弱くなつた急斜面が突然崩れるものです。

これらを防ぐために、国は設備などの形のあるハード対策だけでなく、法律の制定などの形のないソフト対策も着実に進めています。ハード対策で行っていることは、土石流が発生した際に、下流の被害を防ぐ砂防堰堤や、地すべりを防ぐ抑止工、がけ崩れを直接抑えるもたれ式擁壁などの砂防工事です。実際に、どれもこのハード対策によって被害を抑えることが出来た、という事例が数多く報告されています。

一方ソフト対策で行っていることは、危険区域の調査と周知、災害時の情報伝達システム

ムと避難体制の見直し、それを進める土砂土
 害防止法の制定などです。ソフト対策は、ハ
 ード対策のように形は残りませんが、人々の
 防災意識を高めたり、災害時により速く情報
 を伝えたりすることが出来ます。土砂災害を
 設備で防ぐハード対策と、災害時に人の行動
 で被害を防ぐソフト対策の両方を行っていく
 ことで、より多くの命を救えるのです。

しかし、国や県、市町村がどれだけ対策を
 講じてても、私たち一人一人が備えをしていな

ければ、いち速く避難することは出来ませ
 ン。私たちが出来る備えは、いくつかあります。
 一つ目は、身の回りの危険な所や、避難場所
 と避難経路を家族みんなを確認しておくこと
 です。ハザードマップを見れば、土砂災害の
 起きるリスクが高い土砂災害警戒区域が分か
 ります。身の回りが土砂災害警戒区域ではな
 くて、かけ地や小さい沢などがあれば、土
 砂災害が発生する可能性があります。自宅や
 学校、職場の近くにそのような危険な場所が

ないか、自分の目で確認することも、いち速い避難につながると思います。二つ目は、非常用持ち出し袋を家族の人数分用意することです。非常用持ち出し袋は、両手の空くりユツクが良いとされており、十から十五キログラム程度の重さが目安なのだそうです。中に入れるものは、非常食、衣類、救急セット、明かりになる懐中電灯とその予備の電池、貴重品などがあります。そして三つ目は、雨が降り出したら雨量や警戒情報と、土砂災害の前兆現象に注意することです。テレビのニュースやラジオを見聞きして情報を得られるようにならながら、土砂災害の前兆現象にも気を付けます。土砂災害の前兆現象では、地面やがけにひび割れが出来て、水がわき出してきたり、地鳴りや普段聞かない大きな音が聞こえてきたりします。これらの前兆現象があった場面には、直ちに避難しなければなりません。

ニュースでは、間近で土石流を見た人が、

「まさか、本当に起きるとは思わなかった。」
と言っていました。その言葉を聞いて、私は
ドキッと思いました。なぜなら、私もまさか、
自分の周りで土砂災害が起きることなんてな
い、結局「他人事」だと思っ
ていたからです。
私の父は、市役所に勤める公務員で、防災
士でもあります。そのため、災害が起きそう
なときにはすぐに市役所に行っ
てしまいます。
ですから、いざというときは安全な行動をと
るための判断を自分でしなければなりません。
私はこの作文を書くことを通して、土砂災
害の恐ろしさと、まだ私にも出来る備えがあ
ることを学びました。これからは、自分の命
は自分で守るために、今以上に危機感を持
て備えていきたいと思えます。